

# How



2007  
vol.26

「仕事と家庭  
の両立」

## 地元の大学生が徹底リサーチ！ 市民の皆さんの「仕事と家庭の両立」とは？

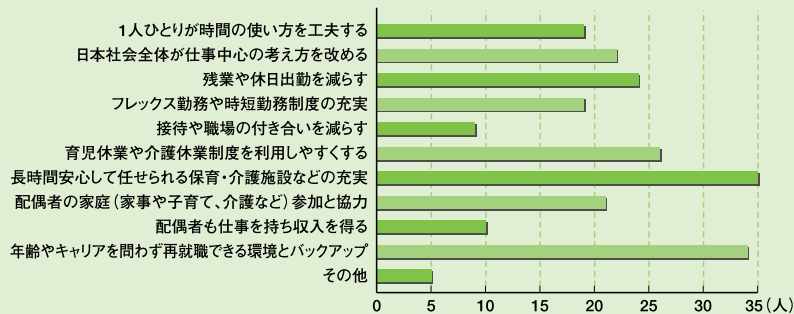
皆さんは、「ワークライフバランス」という言葉をご存知ですか？

1990年代初頭にアメリカの企業で生まれた考え方で、「仕事と暮らし(家事・子育て・介護や地域活動、趣味など)をバランスよく調和させる」ことを意味します。日本でも注目を集めはじめた「ワークライフバランス」について、市民の皆さんはどのように考えているのでしょうか。また、実際に仕事と暮らしはバランスよく調和しているのでしょうか。地元をよく知る大学生とともに「仕事と家庭の両立」というテーマのもと街頭アンケートを実施しました。



### 街頭アンケート調査から見てきた、 「理想」と「現実」のギャップ。

今回、ご協力いただいたのは10代から60代以上の男女108人の皆さん。「仕事と家庭の両立」について「理想」と「現実」を尋ねたところ、約6割(57%)の人から「自分自身の理想と現実にギャップがある」との答えが返ってきました。配偶者など家族に対して「理想と現実にギャップがある」と感じている人の割合も約50%に上っています。「仕事も家庭も同じくらい重視したい」と思いながらも、仕事が家庭(家事・子育て・介護など)どちらか一方に偏っている現実が見えてきました。では、ギャップをなくすためにどんなことが求められているのでしょうか。今回のアンケートでは、「保育・介護施設の充実」「再就職できる環境とバックアップ」「利用しやすい育児・介護休業制度」などに多くの要望が集まっています(グラフ参照)。その他にも、「残業や休日出勤を減らす」「フレックス勤務や短時間勤務制度の充実」など、労働環境に関する要望が多く聞かれました。ワークライフバランスの実現に向けて、企業の果たすべき役割の大きさを示す結果となりました。



HOW26号「仕事と家庭の両立に関するアンケート」より「理想と現実の差をなくすために必要だと思うこと」



市民の皆さん  
からこんな声  
も寄せられました。

● 福利厚生の一環として社内に保育施設を設けてほしい。(20代男性 既婚)

● 企業の意識改革が必要。制度があっても使うことができれば意味がない。(20代男性 未婚)

● 介護支援の充実が急務。これをしっかりやってくれないと外に出られない。(50代女性 既婚 子ども2人)

● 男性の仕事がもっと融通が利くようにしてほしい。男性の育児休業も推進を。(30代女性 既婚 子ども3人)

● 息子夫婦が育児中だが、息子の帰りがあまりにも遅いため配偶者に負担がかかりすぎる。男性の仕事をもっと考えるべき。(60代以上女性 既婚、未婚の記述なし 子ども3人)

みなさん自身の「ワークライフバランス」の「理想と現実」はいかがでしょうか。この機会に家族や職場で話し合ってみてください!



アイデア次第で  
ここまでできる!

## 中小企業の 両立支援策あれこれ。

大阪府内の中小企業を対象に実施されている「仕事と家庭の両立取組応援奨励金支給事業」。そこで選ばれた「奨励金支給対象事業所」の両立支援策は、中小企業ならではの柔軟性とアイデアが光るものばかり。大掛かりな制度を作らなくても、ちょっとした工夫で実現できる両立支援の数々。優秀な人材の確保、活力ある職場づくりに向け、すでに取り組んでいる会社があります。あなたの会社も、できることからやってみませんか。

## 今すぐ導入可能! 両立支援策

### ■社員といっしょに考える

- 短時間勤務制度の導入等につき社内での調査・検討を実施
- 男性も子育てに参加できるよう支援策を検討するためニーズ調査を実施
- 働き方の見直し、ワークライフバランスに関するセミナーや両立支援関連の法、支援制度に係る研修会等を実施

### ■家族のふれあいをサポート

- 仕事に対する家族の理解を深めるため社員の家族を対象とした企業参観を実施
- 子育てに関する悩みや不安を解消するためのセミナーを実施

### ■妊娠や育児を側面からサポート

- 事業所内の空きスペースに妊婦等の休憩スペースやキッズルーム、備品等を整備
- ベビーシッター利用に係る経費の補助
- 保育・子育て支援情報、介護情報を収集し社内WEBサイトで広く紹介

### ■育児中の就業をサポート

- 子育て中の社員宅へパソコンを設置する等在宅勤務を実施
- 育児休業中の従業員のスキルアップ等職場復帰を支援
- ノー残業デーの設置や子育てを理由に離職した社員に対する再雇用制度の導入等就業規則を充実

(平成18年度大阪府「両立取組応援奨励金支給事業」提案事例より抜粋)